

明治神宮 100 年の社叢を探る

樋渡達也 (会員)

- 明治 45 年 7 月 30 日、明治天皇が亡くなられて御陵は伏見・桃山に決まりました。東京に、陵墓にかわるものを設けたいという声にこたえて「神宮奉祀調査会」が設けられ、明治神宮の造営が決まりました。
- 神宮の土地の決定までは大変でした。青山練兵場など東京だけでなく、富士山、筑波山、箱根など多くの候補地が検討され、そのなかから南豊島郡御料地が選ばれました。理由は明治天皇がお気に入りの土地であり、当時としては閑静な別天地であったからです。
- 大正 4 年には「明治神宮造営局」ができ、本多静六などの専門家が集められました。造園関係の技術者としては、後に隅田公園を設計する折下吉延、後に多磨霊園造営に参加した本郷高德、後に農大に造園学科をつかった上原啓二等が集められました。さらに、これらの人たちの下に大屋霊城などの若手技術者が集められます。これらの名前をみてお分かりのように、その後の全国都市の公園、都市計画を担った人たちが集められたのです。
- 敷地は渋谷川に近い台地です。とによりには、江戸名所図会にある代々木八幡があり、玉川上水を新宿で分水した渋谷川が流れています。広重の浮世絵で名高い「隠田の水車」はこの川に掛けられていました。昔は井伊家の下屋敷でもあった場所です。浮世絵に見られるように松林など森があった敷地でした。
- 本郷高德は神社林の研究者です。そして右の図のような森林構成を考え出しました。彼は 100 年先の樹林を予想して、植物自体が森を創り上げてゆく計画を考えだしたのです。神宮の造営には全国から献木が寄せられましたので、それを使いながら 100 年をかけて植物遷移に基づく森をつくりだそうとしたのです。
- 大隈重信などは、従来の神社をならって「杉林がよい」と主張しましたが本多静六をはじめとする技術陣は、隣を走る鉄道や将来の都市化を考慮して、公害に弱いスギはやめて樹林をつくることを強力に進言し、ついに実現させています。今日の植物生態学的判断がなされた記念すべき瞬間でした。その結果、出来上がったのが右にある神宮図です。
- 当時の樹木構成を見ると献木の割合に驚きます。

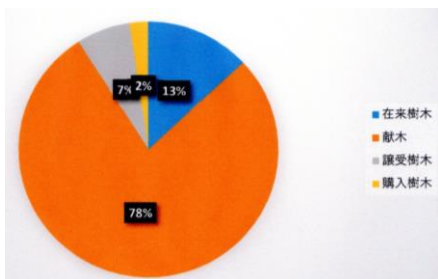


図5 青・既存樹 赤・献木 灰・譲受樹 黄・購入樹

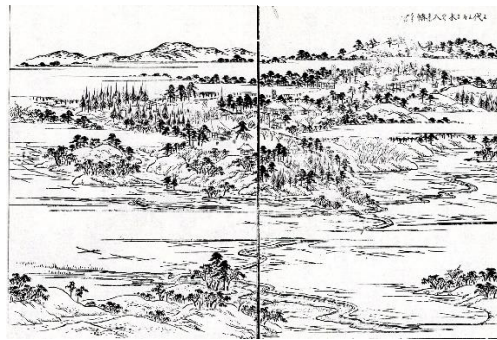


図1 代々木野八幡宮 (江戸名所図会巻三)

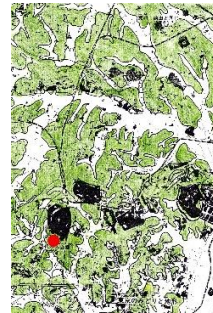


図2 代々木の地形 (樋渡作図)

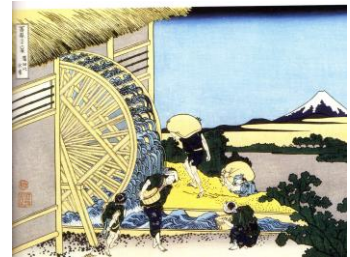


図3 隠田の水車 (広重)

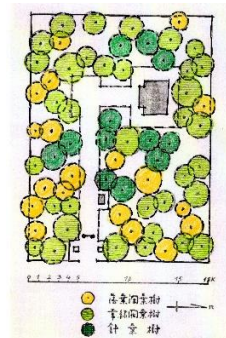


図3 本郷高德と神社林構造図 (本郷原図を樋渡が再構成・着色したもの)



図4 本郷高德が計画した100年間の森の遷移図と神宮図

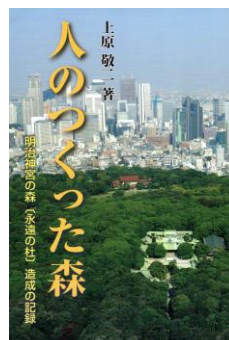
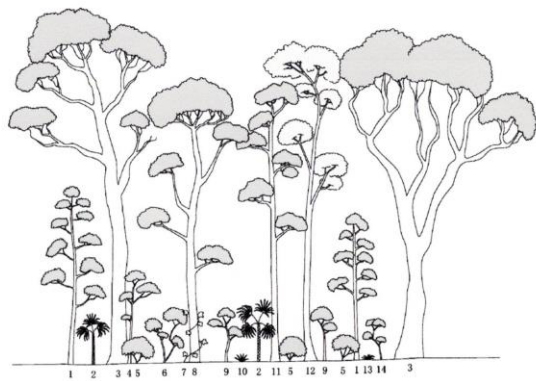


図6 上原啓二博士はこの森を「人のつくった森」と名付け、その著書の題名にも書かれています。

- 現在の神宮の森の構成は、2012年に奥富清博士により行われた調査により明らかになっています。



1 サカキ 5 アオキ 9 ヤブツバキ 13 ナガバジャコブ
 2 シユロ 8 ヤブニッケイ 10 シラン 14 クロキ
 3 タヌキ 7 キツバ 11 シラカシ
 4 アカガシ 8 スダジ 12 ムクナギ

図3. クスノキ-スダジ群落ヤブニッケイ下位単位典型植分断面模式図。

表4. 植生型占有面積と割合比率。

| 植生型など (植生図凡例) | 占有面積 (ha) | 対全森林 (%) | 対常緑広葉樹林 (%) | 対落葉広葉樹林 (%) | 対全域 (%) |
|------------------|-----------|----------|-------------|-------------|---------|
| 宿緑広葉樹林 (1~7) | 39.2 | 83.1 | - | 509.1 | 55.4 |
| 落葉広葉樹林 (8~9) | 7.7 | 16.3 | 19.6 | - | 10.9 |
| 竹林 (10) | 0.3 | 0.6 | 0.8 | 3.9 | 0.4 |
| 全森林 (1~10) | 47.2 | - | - | - | 66.7 |
| 植物系土地利用型 (11~15) | 7.5 | - | - | - | 10.6 |
| その他人工地など (16~18) | 16.1 | - | - | - | 22.8 |
| 全域 | 70.8 | - | - | - | - |

鎮座百年記念第二次明治神宮境内総合調査報告書・2013・9・30 p40,46
 右の「大鳥居」の写真から見ても樹林環境に大きな変化が起きていることがよくわかります。

- 神宮の造営には多くの庭師が動員されました。特に樹木の移植技術と運搬手法に多くの技術蓄積が生まれました。上原博士はそれらを一冊の本にまとめられました。神宮の造営は様々な成果を生み出しています。



上原敬二『樹木根回運搬 & 移植法』嵩山房、1916

樹木根回運搬 & 移植法 高山房 1916

- 神宮の森は、100年を待たずして70年余で完成しました。
- 神宮の森は、現在、東京の緑のネットワークの貴重な拠点となっています。
- ぜひ機会を見て、一度お訪ねになってください。100歳の森がお迎えます。



図7 現在の大鳥居と樹林環境



図8 創建時代の大鳥居と樹林環境(上図と比べてください)



牛を利用しての大木移植風景『樹木根回運搬 & 移植法』第1図

図9 牛が樹木を運搬していた時代です(左図書の挿絵)



社殿敷地内のアカマツの移植

図10 機械は一切使われていません(左図書の挿絵)



東京の緑の輪の形成

図11 東京の緑のネットワーク(緑の東京計画・東京都。2000)

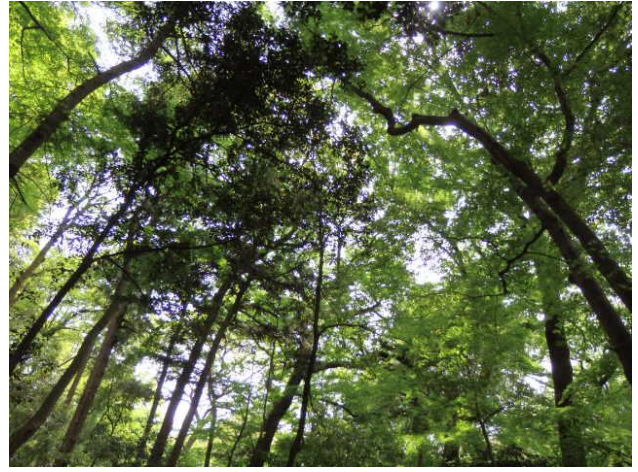
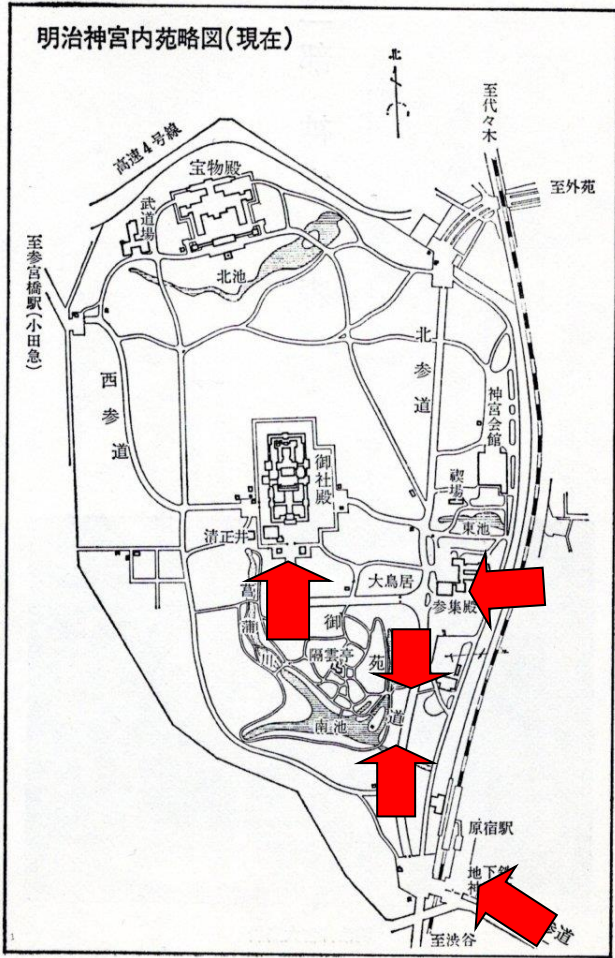


図14 参道の上空は両側の樹木で覆われてきている



図15 大鳥居 台湾産の大木を使用している



図12 参宮橋から第一の鳥居を見る(撮影樋渡 以下同)



図16 参道を右折すると正面に本殿が見える



図13 第一の鳥居をくぐってすぐの参道



図17 帰路、緩やかな勾配の豆砂利敷参道